JTUC
2013.7.5
No.234

毎月5日発行 定価1部10円（組合員の購読料は組合費に含む）
1996年3月4日第三種郵便物許可

MONTHLY
れんごう
北海道
http://www.rengo-hokkaido.gr.jp

発　行　日本労働組合総連合会　北海道連合会　発行責任者　出　村　良　平
〒060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目　ほくろうビル6F　TEL（011）210-0050　center@rengo-hokkaido.gr.jp

「在沖縄米海兵隊の矢臼別移転実弾演習反対全道総決起集会」600名参加し、釧路市で開催

連合北海道と北海道農民連盟で構成する沖縄米軍実弾演習北海道移転反対対策本部は、6月9日釧路市において、「在沖縄米海兵隊の矢臼別移転実弾演習反対全道総決起集会」を600名の参加のもと開催した。これは、今年で13回目となる矢臼別演習場での沖縄米海兵隊の実弾射撃訓練が、6月10日から強行されようとしていることを受け開催したもの。

第1部として、沖縄国際大学佐藤学教授から「沖縄から見た日本の主権と米軍基地問題について」と題した講演を頂いた。その中で沖縄の米軍基地の現状、普天間問題の変容、安倍政権の狙い、尖閣諸島問題等について語った。特に、在日米軍基地の負担軽減については「海兵隊の組織維持の仕掛けに日本政府は騙されている。日本にとって何が必要かを見極める必要がある」との指摘があった。また普天間基地に配備されたオスプレイについて「国土交通省は米軍から飛行計画を受け取っていたのに、米軍の秘密だから判らないとして国民に発表していなかった。一体、日本政府は誰のために仕事をしているのか」と国のあり方について強い口調で語った。

引き続き行われた集会では、主催者を代表し連合北海道工藤和男会長が「米海兵隊の移転訓練は、むしろ被害を全国に拡大するものである。基地被害に苦しむ沖縄県民と連帯し、米軍基地の整理・縮小と不平等な『日米地位協定』の抜本的な見直しを行うことこそが、今こそ求められている」と挨拶、引き続きこの問題に取り組んでいく意志を明らかにした。

続いて、連合本部から坂貴之連帯活動局長、北海道議会民主党道民連合から岡田篤会長が連帯の挨拶にたった。坂連帯活動局長は「連合本部としても署名活動や政府

要請なども行ってきている。政権交代で難しさはあるが、あきらめることなく取り組みを進めていきたい」とした。また岡田会長は「憲法より日米地位協定を変えるべき。最も大切である訓練の詳細な情報が提供されず、交渉できる仕組みも全くできていない」と国の対応を批判した。

経過報告については連合北海道緑川義昭道民運動局長から行われ、訓練の中止や反対を求める打電行動や、北海道知事と北海道防衛局に対しての要請行動等について報告した。

集会アピールが採択されたのち、閉会挨拶として、北海道農民連盟山田富士雄委員長は「実弾演習は直ちに中止しなければならない。今後もみなさんと一緒に取り組みの輪を広げていきたい」と述べた。最後に連合釧根地協佐藤久夫会長による移転演習に怒りを持って抗するとした団結がんばろうによって閉会した。

対策本部は、今後も矢臼別移転実弾演習に反対するとともに、在日米軍の整理縮小、日米地位協定の抜本的見直しの闘いを更に広げていく。

〈この記事のアドレス〉http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/report/2013060901_yausubetsu.html

「STOP THE 格差社会!」全道キャラバン終了
全走行距離6233km　札幌で到着集会開催！

5月20日に豊富町をスタートしたキャラバンは、全道106カ所で街頭演説を行い、延べ166市町村を街宣走行した。

16日正午、晴れ上がった大通公園11丁目広場で、全道を走破した連合北海道の街宣車と共に、500人が参集して到着集会が開催された。連合北海道渡辺副事務局長の司会のもと、連合北海道　工藤会長は、「いま、私たちが声を

上げなければ社会は変わらない。労働者の犠牲の上に成長戦略を描く姿勢は断じて容認することはできない」と訴えた。

豊富の出発集会にも駆けつけた連合本部の須田総合労働局長からは「全国キャラバンとして取り組んできたが、最低賃金と生活保護費の逆転を解消し、働いて暮らしていける賃金にすること。民間の賃金を上げろと言いつつ地方公務員の給与を下げろという政府。アベノミクスの副作用で富める者はますます富み、貧しい者がますます苦しめられることが起きている。今の政権が何をしようとしているのか、しっかり見極めて夏の参議院選挙を迎えなくてはならない」と、アベノミクスの危険性を訴えた。

連合北海道の永田組織労働局長から1ヶ月に及ぶキャラバン行動について、全道での集会参加者は延べ3230人、街頭演説は106カ所、訪問自治体は166カ所、街宣車の総走行距離は6233kmに及んだことが報告された。

続いて民主党小川参議員から、「安倍政権からは『経済』や『成長』の言葉はあっても、『内需』や『個人消費』、『可処分所得』の拡大、『幸せ』や『豊かさ』という言葉が聞かれない。安心して暮らせ、格差が少なく、家庭を持ち、働く喜びを享受できる当たり前の社会が私たちのめざす政治だ。7月21日、STOP THE 格差社会の取り組みは重要な局面を迎える。アベノミクスにNO！を突きつけ、連合推薦9候補とともに戦い抜く」と力強い決意表明がなされた。

連合北海道女性委員会の山田委員長が読み上げた集会アピールを採択し、来たる参議院選挙に全力を挙げることを確認した。

最後は石狩地協の井上会長の力強い団結ガンバローで、1ヶ月にわたる全道キャラバン行動を閉じた。

〈この記事のアドレス〉http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/report/2013061801_kakusa-caravan15.html

「男女雇用機会均等法集会」を開催

講演やパネルディスカッションなど実施

連合北海道主催「男女雇用機会均等法集会」が、6月1日に札幌市内の「きょうさいサロン」にて開かれ、全道から187人の組合員が参加した。

山田悦子連合北海道女性委員会委員長は、主催者あいさつで「女性の再就職が難しくなっていることから今後は均等法の周知がカギになる。今日学んだ内容を実効あるものにするため各組織・組合員に伝えて欲しい」と述べた。

来賓として出席された小川参議は、「今の政権が打ち出している『女性手帳』『育休3年』は、男は仕事・女は家庭という昔からの考えがベースにあり男女平等は進まない。男女格差の解消のために、声を上げ、要求していくことが重要である」と話された。

第1部として、「統計からみる女性と男性の生き方・働き方」と題し、北海道学園大学経済部・水野谷武志教授より講演を受けた。「男女共同参画統計データブック」をもとにしてお話されたが、性別役割分業がまだ根強く残っている国（日本・韓国）にM字カーブがはっきりと出ていること。結婚、出産しても働き方を選べる国、出産や育児をフォローする制度がしっかりしている国（フィンランド・米国・タイ・フランス）ほど年齢階級別経済活動率が高いこと、管理的職業従事者の女性の割合が、ヨーロッパの38%に比べ日本は9%とかなり遅れていることから、日本の男女平等参画の道はまだまだ遠いと話された。

第2部のパネルディスカッションでは、水野谷教授、徳永参議院議員、高橋連合副事務局長、吉田自治労組織拡大推進室組織拡大オルグをパネラーに、「それぞれの立場からみる均等法の問題点」について意見交換した。

水野谷教授は、問題点を明確にしていくためには、今まで日本で重視されていなかったジェンダー統計による分析が必要であり、その研究成果を労働組合などとの連携で政策に反映させていくことが現状を改善する一助となるのではと提言された。徳永参議は、フリーアナウンサー時代の労働環境のこと、女性の貧困の問題、現在の政府産業競争力会議における審議内容など話された。吉田オルグからは、自治体職場の現状、特に、非正規労働者の処遇改善が結果として賃金などの男女差をなくすことにつながるという提起があった。高橋副事務局長からは、男女同一賃金と書かれていても、同一価値労働同一賃金は明記されていないなど、現行の均等法の問題点の説明と、現在労働政策審議会に労働者代表として出席し、2014年の均等法改正にむけて労働者の声を政

策に反映していること、また、連合は、賃金格差の「みえる化」や昇進昇格のポジティブ・アクションにも取り組んでいることなどが話された。

4名のパネラーの活躍の場は様々だが、少子化と総労働力維持・確保対策、男女平等参画の視点に立った政策・施策や取り組みの現状には多くの意見・提言をもたれていた。

安倍政権は「雇用の流動化」など、経営者側に寄った政策ばかり打ち出そうとしており、労働者の生活基盤が不安定なものになってしまっている。統計データーを見ることによって男女格差の課題が明らかになり、改めて自分たちの職場での現状と課題について考える集会となった。「このような時代だからこそ、労働者の側にたった政党、職場の声を解決できる労働組合の運動が重要である」と、長谷山事務局長がまとめ、集会を終えた。

〈この記事のアドレス〉http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/report/2013060502_kintohou.html

アジア・アフリカ救援米を作付け

渡島地協組合員、家族らが参加して田植え

「道南にも初夏が来た」と感じさせる程の好天に恵まれた6月1日、北斗市東前において、アジア・アフリカ救援米作付けに30名を超える組合員、家族が参加した。

主催した「食・みどり・水を守る道南地区労農市民会議」の佐藤副議長（連合桧山地域協議会会長）からは、この取り組みの主旨や歴史について説明すると共に「今日植えた稲の収穫にも是非、参加してもらいたい。また、今年で4回目となる秋の一大イベントである『食と環境まつり』へも足を運んでいただきたい」と参加者に挨拶した。

今回も園児や小学生が多数参加し、中には田植えが始まる前から張り切りすぎて駆け回っているうちに転んでしまい、本番を棄権する子もいた。

この運動のために従来から水田を提供していただいている山本さんから、初心者向けのアドバイスがあり、「足が抜けなくなったら、まずは踵から上げる」という基本動作に参加者一同、頷いたところで田植えが開始された。

生温い水の中、泥特有の感触に尻込みする子どももいれば、職人並みに真っ直ぐ苗を植える子どももいた。苗のブロックの受け渡しでは、日頃培った連帯感はどこへやらという場面もあったが、約1時間で予定のエリアに苗を植え終わった。

それぞれが水田を囲うように端から植えているせいか、不思議と真ん中に隙間が残ったりもしたが、そこは、植物栽培を趣味としている労働相談員が最後に仕上げ、機械にも見劣りしない出来映えだった。

今回は山本さんのご厚意で、自宅で「ミニ水田」をつくるため、希望者には今日植えた「ななつぼし」の苗をお持ち帰りという、おみやげ付きだった。

参加者からは自宅で「茶碗一杯のコメ運動」ができると喜びの声があがり、笑顔で今年の作付けを終了した。

〈この記事のアドレス〉http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/report/2013060101_oshima-aarice.html

7月の主な動き　イベントカレンダー

■JILAFタイ・インドネシア招聘事業
1日（月）～2日（火）
■第23回参議院選挙公示日
4日（木）
■第23回参議院選挙投・開票日　21日（日）
■第10回執行委員会
25日（木）10:00／連合北海道会議室
■第8回地協事務局長会議
25日（木）13:30／連合北海道会議室
■高校生1万人署名街頭署名行動
27日（土）～28日（日）13:00／大通4丁目
■地協専従者懇談会
29日（月）13:00／釧路
■全労済第4回北海道本部代表者会議
31日（水）13:00／京王プラザホテル

第23回参議院選挙

毎日が投票日

期日前投票に必ず行こう!

期日前投票の期間
2013年7月5日(金) ～ 7月20日(土)

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

第23回参議院選挙 投票日

こんなにカンタン! 期日前投票

当日選挙にいけない…
「期日前投票」を利用すれば、
公示日の翌日から毎日が投票日です

いつから？ 公示日の翌日から投票日の前日まで!
都合に合わせて自由に投票できるシステムです。

どこで？ 自治体指定の期日前投票所!
午前8時30分～午後8時まで

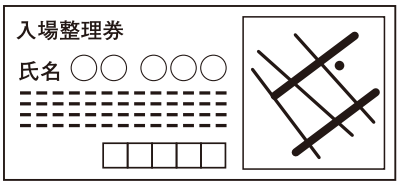
理由は？ どんな内容でもOK!
仕事・旅行・病気など「理由に○」をするだけなので、レジャーでも仕事でもどんな理由でもOK!

方法は？ 通常の投票方法と同じ!
投票の手順は通常の投票日とまったく同じです。

※投票所などの詳細は、各市区町村の選挙管理委員会にお問い合わせください。

投票の手順

1 入場整理券が届く



2 投票時間に投票所に向かう

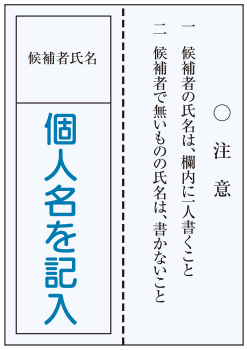
投票時間 午前7時～午後8時まで
※原則であり、市区町村によって異なる場合があります。

投票日当日は、もし入場券を忘れた場合でも、選挙人名簿の確認ができれば投票することができます。

3 参議院選挙は選挙区と比例区の2回投票する

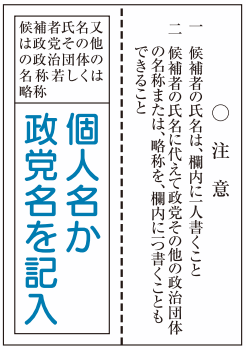
1回目 選挙区選挙

選挙区用投票用紙（薄黄色の用紙）



2回目 比例代表選挙

比例代表用投票用紙（白色の用紙）



7月21日(日)に投票へいけない方は棄権せず、必ず期日前投票 7月5日(金)～7月20日(土) を活用しましょう!